

けいざい+

ご意見は keizai@asahi.com へ

50代の居場所 ②

女性のキャリア「答え」は外に



10月に開催された女性のためのセカンドキャリア研修で話す西村さん。次回は来年5～6月を予定している＝東京都渋谷区

20人ほどの参加者で女性1人だった。富士通のグループ会社の部長だった西村美奈子さん(60)は、55歳の時に役職定年の対象者を集めた人事研修に参加した。部下がいなくなる役職定年後の待遇や生活設計へのアドバイスなどがあった。

男性社員のほとんどが「できるだけ会社にとどまりたい」と答えた。でも西村さんの思いは少し違った。

「いつかは会社を去る。その後をどう生きるかを今から考えるべきではないか」

83年に総合職として富士通に入社。仕事は山あり、谷ありだが、楽しかった。富士通でエンジニアとして働いていた夫と家事を分担し、子育ても全力で取り組んだ。

40代後半から先行きに不安を覚えるようになった。人生で大きな比重を占めてきた仕事。いつか必ず、辞めるときがくる。

「これまで打ち込んできたものがゼロになってしまふ」。そんな恐怖心があった。

会社では様々な仕事に挑戦してきたが、自分は人事のプロでも、財務のプロでもない。社外で通用する専門的なスキルがあるとは思えなかった。職場で相談できる先輩の女性はいなかった。10年悩んだ。

「答え」は会社の外にある気がした。

仕事で知り合った昭和女子大の坂東真理子理事長に、思い切って悩みや思いを打ち明けた。すると「うちで研究したらどうですか」と誘われた。56歳の時に会社の許可を得て、昭和女子大現代ビジネス研究所の研究員を兼務することになった。

そこで知り合った自動車メーカー出身の研究員とともに女性のセカンドキャリアを研究した。サイトをつくり、退職後も働く女性たちのインタビューなどを掲載した。

50歳で食品会社を辞め、家族のルーツを調べる会社を立ち上げた人。電機メーカーで働いた後、「育児後コンサルタント」として独立した人。56歳の役職定年で退職し、パソコン教室を開いた人――。それぞれが自分らしい生き方を切り開いていた。

西村さんは、57歳で富士通のグループ会社を早期退職した。昨年末、女性のセカンドキャリア研修などを行う会社を立ち上げた。1986年に「男女雇用機会均等法」が施行されてから30年が過ぎた。総務省の調べによると、45～64歳の正規雇用で働く女性は423万人。後半生の生き方に悩む女性は少なくないはずだ。

研修の参加者はおもに50代の女性。「悩みを分かち合える仲間と知り合う機会になった」といった前向きな評価がほとんどで、西村さんは手応えを感じている。

ライフワークを探り当て、心の中の「モヤモヤ」は「ワクワク」に変わった。

西村さんは「みんな貴重な経験や高い能力がある。会社に残るにしても、辞めるにしても、社会に貢献し続けてもらうための応援をしたい」と話す。